

活動成果報告書

令和6年度（第28回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

『ヒアリングフレイルって知ってる？』

～難聴の早期発見・早期対応、聴こえのサポート体制構築～

グループ名称・氏名（グループの場合は代表者名）

豊中市保健所 健康推進課

代表者：前川 真美

勤務先：豊中市保健所

所 属：健康推進課 健康支援係

所在地：〒561-0881

大阪府豊中市中桜塚4-11-1

TEL：06-6152-7381

FAX：06-6152-7328



◇活動方針

豊中市（以下、本市）は令和4年度よりコロナ禍における健康課題に対応するため、あらゆる施策を展開してきた。本事業はその一環として開始した事業である。

コロナ禍における活動自粛に伴い、人との交流やコミュニケーションの減少によって聴力低下に気づかないまま放置される、また、社会的フレイルに陥りひいては認知症やうつ病のリスクが高まることが懸念された。

本市は人口約40万人で、高齢化率は26%を超えている。今後さらに高齢者人口の増加が予測される中で、多くの高齢者が抱えるであろう「加齢性難聴」に着目し、難聴に早期に気づき対応できるよう「ヒアリングフレイル」という概念を用いて事業を展開することとした。

また、難聴は認知症の予防可能な最大のリスク因子であるとされており、認知症予防の観点からも、普及啓発やハイリスク者へアプローチする意義は高い。さらに、関係機関が連携しヒアリングフレイルや軽度難聴の人をサポートできる体制構築に向けた取り組みも始めている。

※ヒアリングフレイル…聴き取る機能の衰え（耳の虚弱）のことで身体的フレイルのひとつ

◇令和5・6年度の活動内容

◆市民啓発

- ・啓発チラシの作成やSNSの活用

認知度の低い「ヒアリングフレイル」について市民に知ってもらうため、啓発チラシを作成し、イベント等で配布した。また、市公式SNSなども活用し周知啓発を行った。

- ・市民向け講演会の開催

令和5年10月に開催された市民健康展において、「ヒアリングフレイルってなに？～難聴と認知症の関係～」と題し、市民向け講演会を実施した。

活動成果報告書

◆早期発見・早期対応

- ・ヒアリングフレイルチェックイベントの開催（写真1）

「みんなの聴脳力チェック」アプリを活用し、聴力チェックを実施。語音聴取率 60%未満の人には耳鼻科を受診勧奨した。受診先にあたっては、市医師会と連携し、市内 21 医療機関の協力も得た。また、聴こえに関し日常生活で困っている人などに対し、言語聴覚士による個別相談や、希望者には補聴器試用も行った。

（写真1）



- ・介護予防センターにおける聴力チェックの実施

市内 6 か所の介護予防センターにて来所者に対しアプリで聴力チェックができる体制を整え、必要な人へ受診勧奨を実施した。

◆関係機関連携

- ・課題等調査の実施

令和 5 年度に、耳鼻科医、認知症専門医（内科医）、認定補聴器専門店、言語聴覚士（府言語聴覚士会）に対し、難聴の人への支援状況や課題、関係機関の連携の必要性などについてヒアリングを実施した。

- ・難聴・ヒアリングフレイル支援連携会議の開催

令和 6 年度は、課題の共有や、関係機関連携をさらに進めていくためワーキングチームを立ち上げ、市内耳鼻科・認定補聴器専門店のマップや補聴器とその他の聴覚支援機器についての紹介、聴覚を維持するためのセルフケアなどを掲載した「とよなか聴こえのガイド」を作成した。

- ・各種研修会の開催

令和 5 年度は三師会、関係者向け研修会を、令和 6 年度は耳鼻科医向け研修会を開催した。



◆聴こえのサポート環境整備

- ・ヒアリングフレイルサポーター養成講座の開催

令和 6 年 8 月に、市民を対象に難聴のある人との適切なコミュニケーションや、聴こえのチェックの仕方等について正しい知識の啓発を目的に実施した。

◇令和 5・6 年度の活動成果

◆アウトプット

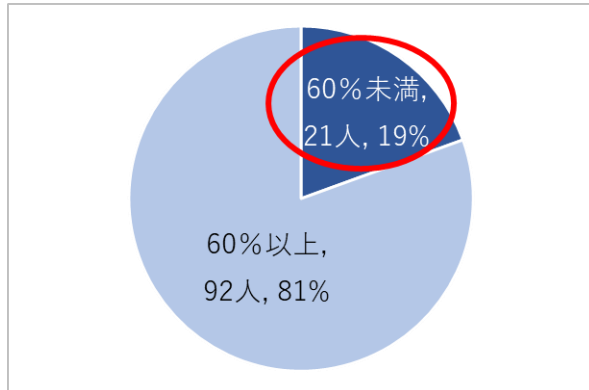
- ・ヒアリングフレイルの早期発見のための主催イベントは、令和 5 年度は 8 回 113 人が参加した。その他のイベントや介護予防センターで、520 人が聴力チェックを実施した。（令和 6 年度は実施中）
- ・市民向け講演会は 50 人、三師会向け研修会は 22 人、関係機関向け研修会は 32 人が参加した。
- ・関係機関への調査では、補聴器装用の適応や継続装用に関する課題、認知症患者本人とのコミュニケーション、高齢者の難聴に対応できる人材不足などの課題について把握することができた。
- ・啓発や連携に活用するツールとして作成した「とよなか聴こえのガイド」は市民や市内医療機関等に計 3,100 部配布した。
- ・ヒアリングフレイルサポーター養成講座には 27 人の市民が参加した。

活動成果報告書

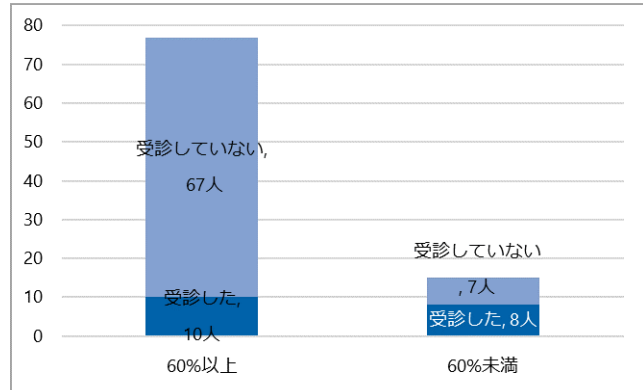
◆アウトカム

・主催イベントの聴力チェックでは19%にあたる21人が語音聴取率60%未満であり、耳鼻科医受診は18人、補聴器装用は4人であった。必要な人が医療に、また補聴器装用につながった。

○語音聴取率（全体）



○耳鼻科受診状況



※事後アンケート返送のあった92人のうち

・「とよなか聴こえのガイド」は医療機関等から活用していきたいとの声をもらい、追加配布を行った。

・関係機関を巻き込んだワーキングチームを立ち上げたことにより、それぞれの立場から聴こえの課題について議論することができ、新たな健康課題について意識づけ、行政だけではない地域全体の取組として発展させることができた。

◇今後の計画

「ヒアリングフレイル」について取り組んでいる自治体はまだ少なく、補聴器を装用するだけでは解決できない聴こえの問題について、地域も巻き込んだ取組を行っているのは本市の強みであると考ええる。また、聴力低下について市民の関心は高く、高齢化社会における認知症予防の観点からもアプローチする意義は大きい。

今後の展開として、語音聴取率60%未満の人を確実に受診につなげていくため、後追い評価として医療機関から受診結果を保健所へ返送してもらう仕組みを新たに構築する。また、地域でのサポート環境をさらに強化していくため、聴こえの専門職として市民からの相談・助言等に対応できる言語聴覚士を市独自で育成していくことを計画している。

本市においても今後高齢者はさらに増加していくことが予測され、健康寿命の延伸に向けた取組が必須である。新しいフレイルの観点から事業を確実に実施し、必要な高齢者に適切にアプローチすることで「いきいきと暮らせるまち とよなか」を着実に推進していく。